

海のアイドル ダンゴウオ



横原 浩二

YOKOHARA KOUJI

アイレック技建(株)
非開削推進事業本部

皆さん、ダンゴウオってご存知ですか？

ダンゴウオとはカサゴ目カジカ亜目に所属する魚で、北極海から北半球の寒冷な海に生息しています。

日本だと北海道から本州にかけて生息しているようです。

また体長は3mm～30mm程度で、ひょうきんな風貌と愛らしい動きで多くのダイバーを魅了しています。

私は静岡県伊東市にある川奈の海で、2007年の4月にダンゴウオと出会って以来、ひたすらにダンゴウオを追いかけています。(写真-1)



(写真-1)

川奈の場合、12月から1月の繁殖期に親が見つかり、3月に稚魚、4月～5月に若魚へ育ち、水温の上昇に合わせて姿を消していきます。

特に稚魚が見つかる3月初旬は、河津桜祭りをもじって「川奈ダンゴ祭り」と呼ばれていますが、水温が17～18度ですから、正直寒いです。

一般的に言われているウェットスーツではなく、体が濡れないドライスーツを着て、スーツの中には化学繊維のインナースーツ、頭には5mm厚のフードを被り、手にも5mm厚のグローブをしています。

夏の間は深海に移動すると長らく言われてきましたが、最近は岩影に隠れているという話もあるなど諸説ありますが、実態はまだ解明されていません。

またダンゴウオの写真を撮るために、カメラはコンパクトカメラからデジタル一眼レフに変わり、5mm以下という被写体に合わせてレンズも数種類使いますので、財布に厳しい趣味ですね。

このダンゴウオ、稚魚の間は頭の上に輪模様があるため、ダイバーの間では「天使の輪」と呼ばれています。

その愛らしい風貌とは裏腹に食欲で、住処としている海藻の上を行き来し、餌である微小な甲殻類をパクパク食べています。

(写真-2)はダンゴウオが甲殻類を食べる瞬間を捉えたものですが、獲物を狙って飛びかかった瞬間を上手くキャッチできました。

(写真-3)は5月のGWに撮影したもので、フレームに収まりきらないくらい大きくなっていました。

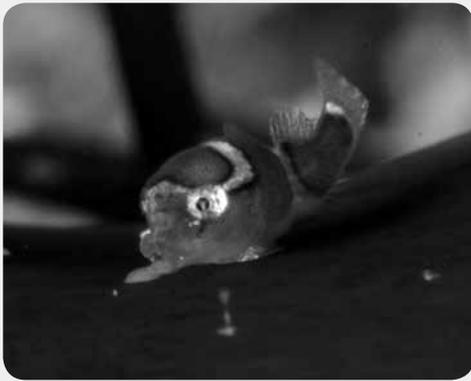
この大きさに育つのは、天使の輪10匹に対して1匹程度です。

夏を越し、繁殖期を迎えられる個体は更に少ないでしょう。自然界って、本当に厳しいですね。

さて伊豆でも見つかるダンゴウオですが、やはり北の海に多く生息し、特に宮城県の女川町が有名です。

そうです。東日本大震災で甚大な被害を受けた、あの女川町です。

私は女川町の石浜というダイビングポイントに通っていましたが、石浜は女川港の外側にあり、津波によって外堤防と堤防へのアクセス道路が流され



(写真-2)



(写真-3)



(写真-4)



(写真-5)

てしまったため、今は潜ることができません。

現地からの情報では、石浜へは20mの津波が押し寄せたようで、堤防の上20mの斜面に、養殖に使うブイが引っかかっていたとのことでした。

陸上はすっかり様変わりしてしまった石浜ですが、海底の調査と障害物の撤去を行った作業ダイバーの方から、「瓦礫の間でダンゴウオを見つけたよ」と教わりました。

震災前の石浜はこの(写真-4)のように、岩の上を動き回るダンゴウオが、それこそ足の踏み場も無いくらいに生息していました。

是非とも復活して欲しいと思います。

また石浜はクチバシカジカという珍しい魚の生息地でもあります。

こちらも絶滅が危惧されていましたが、昨年暮れに見つかったという話を聞いて、少し安心しています。(写真-5)

クチバシカジカは、氷河期にアラスカの方から移動してきたという話や、貨物船やタンカーのバラスト水に混じって移動したという話がありますが、これらも定かではありません。

マグロやカツオなどの経済性動物と違い、魚の生

態は解明されていない種類のほうが多く、ダイバーを魅了する魚の多くは生態不明です。

だからこそ魅力があるとも言えますが。

さて現在の女川町は復興途中であり、今のところ石浜で、レジャーダイビングを行うことはできません。

壊れてしまった外堤防の建設には多くの年月が必要でしょうし、そもそも、現在は街の全体図を描いている最中です。

しかし、女川の、石浜の海は残っています。

例えば陸上からアクセスできなくても、海上からならアクセスできるでしょうから、来春には漁船を借りて潜ろうとダイビング仲間と計画しています。

それまでは、女川の特産物を購入したり、水中の漂着物・障害物を撤去し続けている団体や、行方不明者の捜索を続けている団体、また女川町ボランティアセンターを応援していこうと思います。

個人でできることは限られていますが、できることをやり続けることが、石浜のある女川町や三陸復興の一助になると思います。

ぜひ皆さんも、三陸の海の幸という豊かな自然の恵みを味わい、できれば現地に遊びに行ってもらえないでしょうか。